

## 編集後記

機関誌『陽明学』第十二号（李卓吾特集号）、巻頭には柴田篤氏（九州大学教授）の玉稿を頂戴、次いで、望月高明氏（都城高専助教授）には前号を承けてお書き願ひ、渡辺賢氏（本研究所以非常勤助手）には、多少とも本号特集に関連のあるものということでお願いした。

特集としては、夙に李卓吾研究に多くの業績をもつ佐藤鍊太郎氏（北海道大学教授）、紅樓夢研究の専家で、鄰居の東洋学研究所長、斎藤喜代子氏（本学教授）の二本に、中国李贽研究学会会長の張建業氏（首都師範大学教授）の御論考を加えることができた。張氏を御紹介くださった疋田氏は、手づから翻訳の労をもとられた。四本目の川津麻衣子氏は本学大学院博士前期課程を了り、現在北京に留学中の方である。

特集とは別に、本号では浙江省社会科学院副研究員の銭明氏と、韓国陽明学会が提供下さった二種の資料を載せることができた。翻訳に当たってくださった渡辺賢氏、お

よび林縉圭氏に謝意を表する。

「紹介と短評」欄。冒頭の三島正明氏は近時『最後の儒者―三島中洲』を明德出版社より出され、現在、本学舎監事の任に在る方である。以下、本年度は関連図書の出版が重なったが、疋田氏はそれらの多くを手がけてくださった。また「陽明学だより」欄には本号、特に一頁を増し加えて、三島中洲シンポジウムのことを付録した。

研究所主催の講演会は、春季「赤穂義士と陽明学」と題して、作家の林田明大氏、秋季は「山田方谷の陽明学」と題して、無窮会専門図書館長の浜久雄氏にお願いし、共に盛会。なお秋季には渡辺賢氏の「余姚国際陽明学検討会参加報告」が加わった。

当研究所設立当初より、参与として、また顧問として、長い間運営に関わられた小林日出夫氏は、昨年九月、本学舎理事長を退き、本学舎顧問に就かれたが、本研究所としても引続き顧問をお願いすることになったので、運営委員会のメンバーに変わりはない。

次号は、東沢瀉特集号ということで準備を進めている。御期待を乞う。（松川）

陽明学（年一回発行）

第十二号

平成十二年三月三十一日

定価 本体一〇〇〇円＋税

送料 二四〇円

編集責任者

松川健二

発行責任者

石川忠久

発行所

二松学舎大学陽明学研究所

東京都千代田区三番町六一六

郵便番号 一〇二一八三三六

電話 〇三―三三六―一七四三八

発売所

株式会社 明德出版社

東京都新宿区新小川町八一二六

郵便番号 一六二一〇八一四

電話 〇三―三三六―四〇一

FAX 〇三―三三六―四〇三

振替 〇〇一九〇―七五八六三四